

令和5年度（七里ガ浜高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
① 法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚を持ち、社会人としてのマナーやモラルを踏まえた行動をとり、信用失墜行為を防止する。	不祥事防止研修を実施し、具体的事例や行動チェックを通して、教育公務員としての自覚を再認識させ、自身の行動を振り返る機会とした。また、職員会議や朝の打合せ時に綱紀保持等の情報について常習的に周知等することで、法令遵守意識について認識を深めることができた。
② 職場のハラスメントの防止	職員一人ひとりが、ハラスメントの意味を理解し、防止及び排除に取り組む。	不祥事防止研修でハラスメントについての理解を深め、他者の人権を尊重する意識を醸成した。また、具体的事例を通してハラスメントの防止について実践する態度を養った。
③ 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	わいせつ・セクハラ行為の未然防止に当事者意識を持って取り組む。	不祥事防止研修等において、事案が発生しやすい状況について知り、日常的にそれらを排除できるよう、意識を高めた。また、綱紀保持通知等により職員相互の危機感を共有するなど、当事者意識を高めることができた。
④ 体罰、不適切な指導の防止	生徒の人権を保障し、体罰や不適切指導、不適切発言を未然に防止する。	人権研修や不祥事防止研修等において行動チェックを実施し、自身の言動の傾向を知ることで、体罰や不適切な指導の未然防止へとつなげた。また、同時に周囲の者がとるべき態度について知ることで、同僚の体罰や不適切指導への防止に役立てた。
⑤ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	入学者選抜、成績処理、調査書、推薦書等の発行におけるルールを徹底しミス根絶する。	入学者選抜の業務について職員全体でマニュアルを読み合わせ、作業手順と点検手順等について入念な確認を行うとともに、リスニング不測事態への対応についても、複数回シミュレーションを実施した。また、欠席者への答案の返却方法については、使用するファイルを決めるなど、作業上のルールを徹底することで誤廃棄を防いだ。
⑥ 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の取扱いには細心の注意を払い、流出や紛失を防止する。	不祥事防止研修で啓発点検を行うとともに、教務手帳や答案などの管理を徹底するとともに、暗号化ファイルの適正な使用を推進した。校外学習等の際には個人情報持出票の提出を徹転するなど、職員の意識を高めた。
⑦ 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	教育公務員としての自覚を持ち、交通法規を遵守し、無事故・無違反を目指す。	不祥事防止研修で自らの行動と意識をチェックするとともに、どのような場合に交通事故などが起きたか事例を知ることで注意すべき点を再認識させた。
⑧ 業務執行体制の確保等（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制）	個人ではなく集団で業務に当たっていることを自覚する。	「ほう・れん・そう」を意識し、管理職や職員相互に声掛けを実践して情報共有を行った。また業務は常に複数体制で当たるよう担当を組み、相互にチェックできるようにすることで、組織の仕事として取り組む意識を醸成することができた。

⑨ 財務事務等の 適正執行	財務事務をルールに 沿って厳正に行う。	私費会計基準の周知・徹底とともに、教員向け会計ハンドブックを作成し適正な執行が行われるようルールを明確化した。また、常時複数体制でのチェックを徹底することで、適正な会計処理を行うことができた。
------------------	------------------------	--

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

機会あるごとに職員に対して不祥事防止の研修や事例を周知し、意識して行動するよう注意喚起してきた。昨年度、取り組むべき課題として提示した職員間の良好なコミュニケーションと情報共有による不祥事防止に対する理解を深めることができ、おおむね目標を達成できた。

不祥事は、業務の多忙化によるストレス、ほんの少しの気のゆるみがきっかけとなり、取り返しのつかない事態になってしまう。次年度は、不祥事の実例を知ること、気を付けるべきポイントを把握し、お互いに気になる点を見逃さず、さらにコミュニケーションを深めることが不祥事防止に対して有効と考える。